

2020年度後期 伝道論Ⅱ シラバス

1. クラスの目標

- A) 伝道の実践的な学びを通して、福音を伝えるためのスキルを身につける。
- B) 聖書が示す救いや福音について考察するとともに、神の愛を示し、福音を伝えるキリストの弟子となっていく。
- C) 学びを通して、父・子・聖霊の三位一体の神様との関係がさらに深められる。

2. 授業日程(天候や葬儀等の事情によって変更する場合があります)

10月22日
11月 5日
11月19日
12月 3日
1月14日
1月28日
2月18日
3月 4日

3. 授業の進め方

- A) ディスカッションや実践例を通して伝道について考える。
- B) 学期中に現場で実際に福音を伝える取り組みを行い、その実践をもとにさらに考察を重ねていく。
- C) 福音提示の実習を行い、個人伝道のスキルを身につける。
- D) 授業内容や参考図書について、レポートを提出する。

4. 参考文献

- A) 大山明『深みに漕ぎ出そう！』(「よきおとずれ」2012年8月)
- B) 大山明『福音の種まき』(「よきおとずれ」2014年2月)
- C) 大山明『ワークショップ伝道』
- D) 高塚苑美『クルマを売りたいならクルマの話はやめなさい！』(すばる舎)
- E) ビル・ブライト『四つの法則』(キャンパス・クルセード)
- F) 高木慶太『聖書とは』『あなたも必ず伝道に成功する』(吹田聖書福音教会)
- G) スコット・マクナイト『福音の再発見』(キリスト新聞社)
- H) その他



よきおとずれ

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして……地の果てにまで、わたしの証人となります。(使徒の働き1章8節)

福音の種まき



大阪セントラルクレイスタチャーベル 牧師
大山 明

近くて遠いキリスト教？

一昨年、講談社から『ふしぎなキリスト教』という新書が発売され、売り上げが30万部を突破し、昨年の新書大賞を受賞しました。また、昨年はNHKの大河ドラマで、同志社大学を設立した新島襄の妻、八重の生涯が描かれ、聖書の言葉が何度も語られました。今年の大河ドラマも、キリシタン大名の黒田勘兵衛が主人公ですね。他にも三浦綾子さん、渡辺和子さん、星野富弘さんの本、ミッシェンスクール、結婚式等でキリスト教に触れ、関心を持っているという人は少なくないと思うので



ところが、そんな風に「キリスト教に関心を持って教会に来ました」という方に会ったことは、ほとんどありません。それは私たちが考えている以上に、教会の敷居が高いからではないでしょうか。

玄関に入る、スリッパに履き替える、新米会者カード記入、古い言葉の賛美、分厚い聖書、メッセージ、礼拝後の紹介、挨拶と質問攻め——初めて教会に足を踏み入れるのが、どれほど大変で勇気がいることか。日曜日の礼拝出席や献金等も、教会のハードルを高くしていることの一つです。酒やたばこをやめて真面目にならなければ、クリスチャンになれないと考

えている人も多くいます。

良い地に落ちた種を見出す
ですから、私たちはキリスト教に対する固いイメージや誤解を解いていかなければなりません。そのためには、私たちから世に出て行って、たくさんの人と会い、直接話すことが必要です。その中から、キリスト教や福音に関心を持っている人を探し出すんです。

種まきのだとえ話を思い出して(ルカ8:4-15) 日本で福音の種をまいていても、ほとんどが道

ばたや岩地、いばらの中に落ちてしまい、なかなか実を結ぶことがありません。そういう人にも諦めずに福音を伝えるべきですが、私たちがまず目を留めなければならぬのは、良い地に落ちる種ではないでしょうか。

つまり、私たちがほんとうに相手にするべきなのは、素直にみことばを聞き、受け入れる人です。そういう人が見つければ、伝道は決して難しくありません。そんな人を見つけて出すことが宣教の現場です。ほくほそれを「神様と一緒にする宝探し」と呼んでいます。

宣教の現場は神様と宝探し

あなたの宣教の現場はどこでしょうか。学校のPTA、地域のサークルやボランティア活動への参加、習いごと等、いろんな可能性が考えられます。そこで出会う人に声をかけて友達になり、一緒に食事などをしながら、福音やみことばに耳を傾けてくれる人を見つけてください。中には、抱えている問題や悩みを、誰かに聞いてほしいと思っている人がいるはずですよ。無意識のうちに神様との出会いを求めている人が必ずいます。

極端な言い方をすれば、その人が教会に来るのは最後でも構いません。誰かが教会に来るのを待つのではなく、私たちが自身が福音を携えて宣教の現場に出て行くことの方がずっと大切なことです。それが世に開かれた教会の姿ではないでしょうか。あなたも、神様と一緒に宝探しに出かけませんか。



平野キリスト教会
栗栖 誉也

僕はクリスチャンホームに生まれ、教会にも毎週欠かさず行っていました。小学校6年の終わり頃から洗礼の準備をしてきました。

しかし、中学校に入ってサッカークラブに入り、教会に行かない日々が続きました。その頃の教会学校は、昔から培われてきたスタイルで、正直一つも楽しくありませんでした。洗礼の準備クラスは一旦中止。日曜日には教会に行かない。初めのうちは部活が楽しかったのですが、やっぱり何だか疲れや罪悪感が溜まってしまいました。

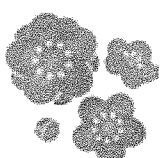
そんな時、神様はこんな全世界の日本の大阪の大阪市内の小さな町のこの一人にも目を留めてくださいって、僕を離さないでいてくれました。僕は教会に戻ることを決心し春の教会のキャンプで悔い改めました。神様は、どれだけ裏切られても諦めずに僕の心のドアを叩いてくださいました。そして教会に戻って来ました。洗礼の準備クラスが終わわり、12月24日、僕は3人のクリスチャンの仲間と一緒に洗礼を

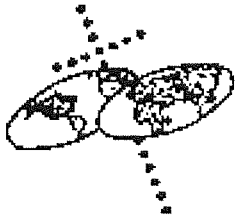
受けました。本当に神様が僕を救ってくださるんだと確信できました。

教会に戻ってきた頃から教会学校のスタイルが変わり、すごく楽しいものになっていきました。今では毎週日曜日の朝8時45分から平均25、30名のおともだち(小学生・幼稚園児)が集まって神様を楽しく礼拝しています。12月22日の教会学校のイベントには40名以上のおともだちが教会に来てクリスマスをお祝いすることができました。

僕は、去年夏の高校生キャンプで献身を決心しました。それは、今は牧師になるとか宣教師になるとかという献身ではなく、自分のすべてで神様を伝えていきたいと思ったからです。大きくなってから福音を宣べ伝えるのではなく、今からでもできることで福音を宣べ伝えられたらなって思っています。

「私は、私を強くしてください。私によって、どんなことでもできるのです。」(ピリピ4:13)
僕はこの日本にリバイバルが起こることを信じます。





よしおとすれ

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして……地の果てにまで、わたしの証人となります。(使徒の働き1章8節)



ゴスペルワークシヨップ
それで、これまでの発想を変

弟子作り命令
主イエスは、復活後、天に昇られる前、弟子たちに言われました。「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。」(マタイ28・18)
「大宣教命令」と呼ばれる有名な箇所ですが、言い換えると「弟子作り命令」です。
ところが、実際のところ、どうすれば弟子作りができるのか、なかなか糸口がつかめませんでした。自分自身、キリストの弟子になっているのか、次の弟子をどうやって生み出せばいいのか。自問自答、試行錯誤の連続でした。そんな中、一年ほど前、みことばとともにチャレンジが与えられたのです。
「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい」(ルカ



大阪セントラルグレースチャペル 牧師 大山 明

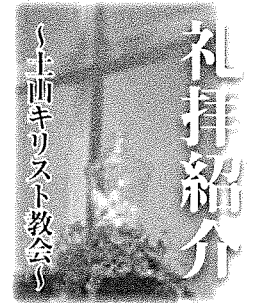
「深みに漕ぎ出そう！」

5・4

深みに漕ぎ出せ！
「深み」とはどこでしょう。漁師たちから見れば、そこは魚がいそうな場所ではありませんでした。しかし、イエスのことばだからと取って付けたところ、網いっぱい魚が捕れました。
漁師の経験よりも、大工イエスのことばの方が優っていたのです。漁師のプロとしてのプライドが砕かれた瞬間でもありません。
ほくにとつて、それまでの漁場は教会がメインでした。だから「どうすれば教会に多くの人に来てくれるだろうか」ばかりを考えていました。しかし、イエスはそれは逆のことを言わされていたのです。「深みに漕ぎ出さなさい」と。そう言えば、マタイの大宣教命令にも、最初に「あなたがたは行って」とあります。

え、新たな出会いを求めて、昨
年秋、大阪市内のビジネス街の
カフェを会場に、妻や友人たち
とともに、ゴスペルワークシヨ
ップを開催しました。9月から12
月まで、月に一度、全部で四回
のゴスペル練習と小さな発表会
を行ったのです。
初めての試みで、どんな人が
どれくらい集まるのか、さっぱり
分からず、緊張とハブニング
の連続でした。しかし、神様は
その取り組みを祝福してくださ
り、毎回20名前後の参加者が与
えられ、多くの新しい友人がで
きたのです。
そして、ワークシヨップをきつ
かけにして、信仰に入る方、洗
礼に導かれる方、聖書の学びを
始める方が起されました。神
様を求めた方がいたのです。こ
れまでの悩みの時期から考える
と、想像もできない成果でした。
ハレルヤ！

あなたの「深み」はどこに
皆さんにとって「深み」とは
どこでしょう。普段とは違うと
ころ。家庭でも職場でもない、
新しい場所はないでしょうか。
時には、教会を離れた、世に近
いところに網をおろしてみま
せんか。
ゴスペルでなくてもかまいま
せん。料理やスポーツ、様々な
趣味やレジャーなど、可能性は
無限にあります。そこには、そ
れまでと全く違った、新しい出
会いがあります。その中に、神
との出会いを求めている人、キ
リストの弟子の候補生が必ず
います。勇気を出して、新
たな一歩をとる踏み出してみ
ませんか。



礼拝紹介
主権キリスト教会

礼拝をささげています。少人数
なので、聖餐式の時には、互
いの祈禱課題を挙げて祈りあつ
ています。
聖餐式
聖餐式は、イエス・キリスト
の十字架のわざを覚えるときで
あると同時に、共に集う兄弟姉
妹のことを覚える時でもあります
(注1)。そのため、私たちは
聖餐式の中で互いのために祈る
時間を持っています。共に呼び
出された方々と神のなされた思
みの契約を感謝するときとなっ
ています。
誕生祝い
毎月第三週には、ワークシ
ヨップの誕生祝い、誕生祝いの時
を持っています。神様がそばにお
いてくださっている兄弟姉妹を
喜ぶひと時となっています。誕
生月の方に一言挨拶をしてもら
うのですが、若さに驚いたり、
小さな子供たちを微笑ましくな
がめたり、神様が一年になして
くださったことを一緒に喜んで
りしています。
終わりに
神が共にいてくださっている
方々と礼拝できることを毎
週、嬉しく思っています。
(真鍋 誠二)

注1 Iコリント10・16・17
「私たちが祝福する祝福の杯は、
キリストの血に共に参加するこ
とではありませんか。私たちの
裂くパンは、キリストのからだ
に共に参加することではありません
か。パンは一つですから、
私たちは多数であっても一つの
からだです。それは、みなのが
共に一つのパンを食べるから
です。」